



子どもの野球人口拡大のための 連携・協力の提案

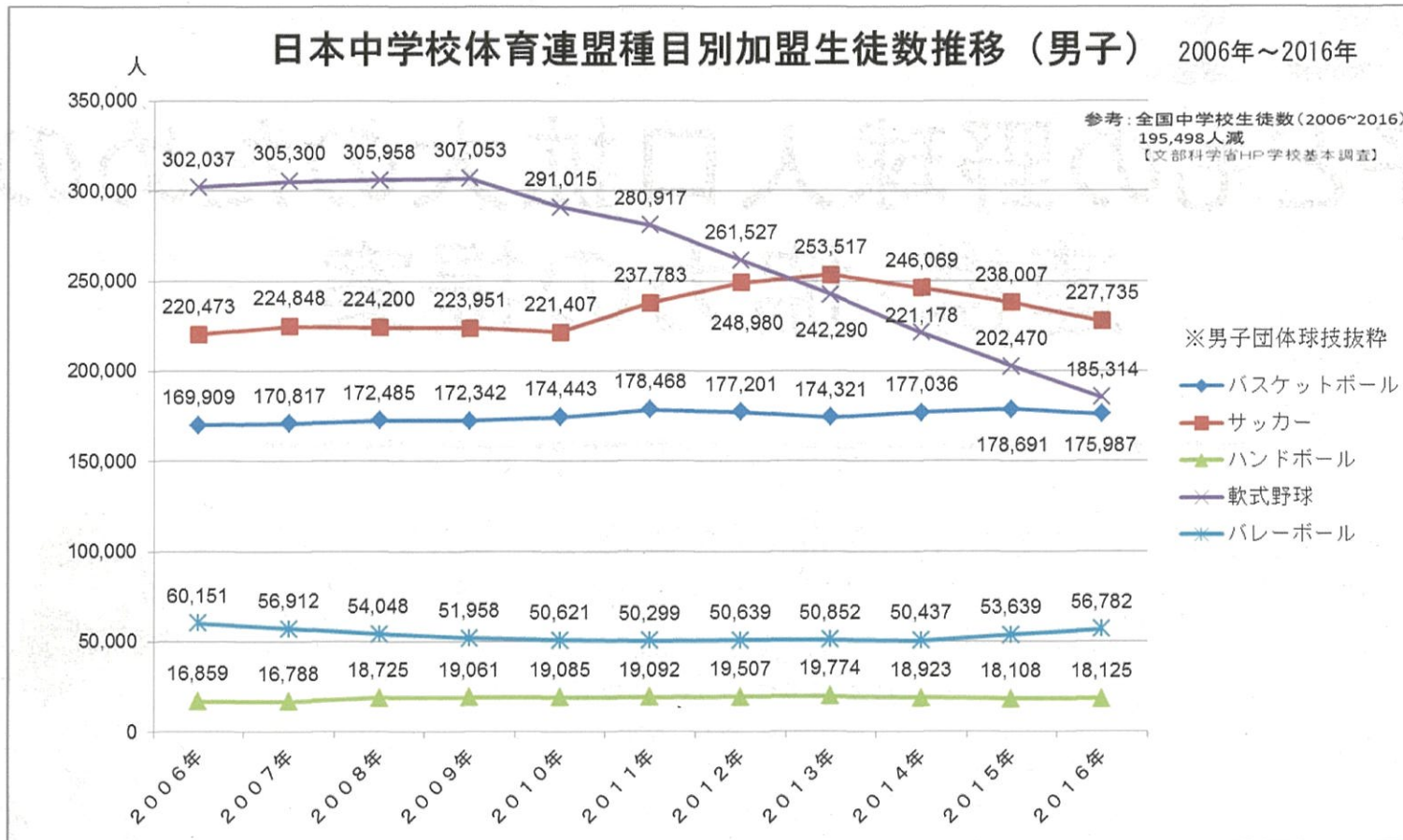
東京都高校野球連盟・東京都軟式野球連盟・
東京ティーボール連盟の3者連携・協力について

2019年3月12日
(特非)東京ティーボール連盟
常務理事 藤川 恭英



I なぜ、連携・協力が必要なのか

1. 子どもの野球人口減少の現状



I なぜ、連携・協力が必要なのか

2. 組織について

組織は個人のレベルを超えた目標を達成するために形成されたもの。



組織は個人を押さえつけるものではなく、個人に制約があって一人ではできないことを、他の人と一緒に成し遂げていくのが、協働システムとしての組織。

個別の組織の能力を超えた社会問題（環境）の出現は組織間の協力を必要とする。

個別の組織の能力を超えた社会問題（環境）とは..

3. 子どもの野球人口減少に関わる社会問題（環境）

○少子・高齢化

少子・高齢化は野球のみならず様々なスポーツにも影響を及ぼしている。

※総務省統計局(2018年4月1日現在)

15歳未満人口前年度比1.16%減 65歳以上人口前年度比1.37%増

○多様性・多様化

スポーツや遊び、その他習い事なども含め、多種多様な選択肢、多様性が求められている。

○個別性・価値観

個性の尊重など保護者の教育観・価値観、社会全体の考え方が変化してきている。

○経済的負担

経済格差(子どもの貧困)が与える影響。

Ⅱ 組織間の連携・協力体制とは

1. 組織間の連携・協働体制とは

各連盟組織に共通する問題を同じテーマのなかで解決していこうとする組織間の意図的な協働行動

問題
子どもの野球人口の減少

テーマ(課題)
子どもの野球人口の拡大

共通する問題を解決する構造的な取り組みが必要
【3者連携・協力に関する合意書】※別紙

2. 合意書のねらい

- 自然発生的な結びつきではなく、意識的・意図的につくりあげていく計画的側面が必要。
- そのことで、幅広くそれぞれの組織形態の比較や連盟間の共生のルールを発見できる。
- また、連盟間のネットワーク認識への視角をもつことができる。

ロビイングなど第3者への働きかけによる方法(政治的戦略)にもつながる。

野球関係組織の連携・協力を社会に発信

4つの効果

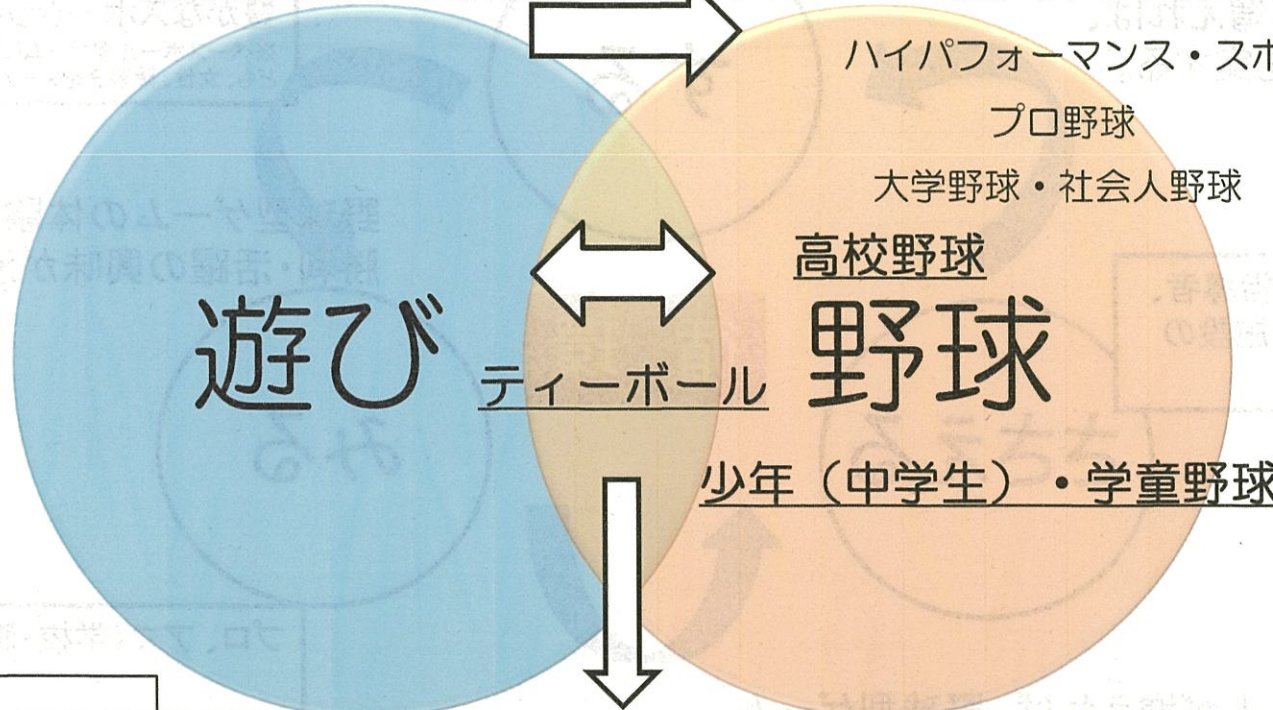
「相互補完効果」「学習効果」「活性化効果」「正当性効果」

Ⅲ 遊びの欲求からスポーツ(野球)の欲求へ

遊び ⇨ ティーボール ⇨ 少年・学童野球 ⇨ 高校野球 ⇨ 大学・社会人野球 ⇨ プロ野球

【原点】 遊びの欲求

スポーツ(野球)の欲求



遊び

ティーボール

野球

少年(中学生)・学童野球

親子3代・子どもから大人、障害者まで
《野球型ゲームによる居場所》

〈遊びとは〉

あるはっきり定められた時間、空間の範囲内で行われる自発的な行為もしくは活動。
遊びの目的は行為そのものにある。

ホイジンガ.1973『ホモ・ルーデンス』

IV 野球型ゲーム「する」「みる」「ささえる」の好循環

野球型ゲーム関係組織自らが「する」「みる」「ささえる」を循環させる仕組みを持つことでさらに発展する

遊び⇒ティーボール⇒少年・学童野球⇒高校野球⇒大学・社会人⇒プロ野球

